

つばめ

フォト劇場 (28)

写真が生まれるものがたり

枯れ草と泥と唾液で巣をつくるつばめよ急げ夏が
終はるぞ

兼平佳津子

生家の通用口の天井近くに（つばめの寝床）
とよぶ板があった。二階の納戸から覗くと子
つばめが親つばめの運ぶ餌を待っていた。頭
より大きく口を開けてピクピク動く様は生命
力そのもの。六十年以上も前のことである。

つばくらの赤竜みみずついはむまるき目にうつる五月の
空のかがやき

池田恭子

八ヶ岳南麓を見渡せる、小さな仕事場の隣家
にツバメが巣を作った。親が滑るように何度
も猛スピードで飛び込んできて、また飛び立
って行く。子ツバメはピーピーと喧しいが、
そのエネルギーをもらって元気になる。



この春もつばめ来たるか入居者のたびたび替はる
あのマンシヨンに
田中 泉

昨年の春まで住んでいた小さなマンシヨンには、毎年つばめが巣をつくり、よく子どもと一緒に見上げていた。住んでいた人たちを思い出すことはあまりないが、つばめの巣は今どんな様子だろうかと想像している。

親つばめ巣に戻るたび賑やかに雛の合唱繰り返さ
れて
人見江一

三月まで勤めていた福祉施設の軒先に、春になると燕が巣を作り毎年四、五羽の雛を育てていた。親燕から餌をもらう雛の合唱が開いた窓から聞こえてくる。今年も燕は来ただろうか。雛は無事に巣立ったろうか。